第 375 号　　生徒さん・ご家庭・先生をむすぶ新聞

とらいあんぐる

2023 年９月

一音会ミュージックスクール発行

「できるの中身」

子どもが何かに取り組んでいる姿を見て、よくできていると、とても安心します。「成長したのだ」、「能力がそなわったのだ」と思って、うれしくなります。

でも、その子の姿は見えていても、その子の頭の中は、のぞくことができません。

その点は、よく考えると、ちょっとした不安です。

でも、よくできている姿を見れば、うれしくなって、とりあえず安心してしまいます。

けれども、そんな安心にかげを落とすかのように、子どもの成長は、ときに一直線には進みません。

「よくできていたのに、いつしかやらなくなっている」、「なぜかやりたがらなくなった」、あげくの果てには「できなくなっている」なんていうこともあります。

かつてできていたことができなくなると「なまけている」とおとなは決めつけてしまいがちです。

「やる気がないからダメなのだ」

そして、叱責してしまいます。

「ちゃんとしなさいよ」と。

やる気がないと解釈するのが簡単だからでしょう。

確かに、モチベーションの問題であることもあります。でも、そうではないこともあります。

今回は、そんな話をします。

一言でいうと、年齢が上がり、課題の質が変わった時、求められる力も変わることがあるのです。

課題をおこなう本人は、痛いほどそれを感じるのですが、見ているだけのおとなには分かりません。

必要な力が変わるため、それまでのやり方では対処できなくなります。

以前、特別支援教育にたずさわる学校の先生が、興味深い話を紹介していました。私の心にささるエピソードだったので、紹介します。

ある小学生の女の子の話です。

その子は、いつ見ても本を読んでいる子でした。休み時間には、自分の席で本を読んでいますし、授業中も一生懸命、なにかを読んでいます。

「本が好きなのね」と、まわりのおとなは皆、ほほえましくその姿を見守っていました。テストはいつも高得点です。

ですが、その子が中学に進み、勉強でつまづくようになります。

つまづきは、全教科におよびましたが、特に国語の成績が急降下していました。

よく調べると、読むことに困難があると判明するのです。

ご家族は、ひどく驚きます。

先生も驚きます。

「本が好きな子なのに?!」

「あんなに本を読んでいたのに?!」

「国語が得意なんじゃないの?!」

そこで、皆、実態に気づくのです。

その子は、好きだから読んでいたのではなく、読んでも意味がつかめないために、時間をかけて読んでいたのでした。

調べて判明したのは、その子は理解力に問題はないものの、文章を読む時一部しか認知できない状態であった、ということでした。

そのために、同じ本を繰り返し繰り返し、読まなくてはいけなくなっていたのです。繰り返し読まないと、意味が分からないためです。

想像すると涙が出ます。好きでずっと本を読んでいるわけではなかったのでした。

その子は、理解力に問題がないので小学校は推測で答えていました。

小学校のテストはやさしく、ひねりがありません。文章も問いもやさしいので、推測で何とかなります。だからテストでも点がとれました。

でも中学校に入ると、文章が難しくなり、内容も複雑になります。ちゃんと読解できていないと答えを出せなくなってしまいました。

そのために、テストの点が急降下してしまったのでした。

こんなふうに、その子の頭の中でおこっているつまづきは、目に見えません。

やる気がないわけでも、なまけているわけでもなかったのです。

ちなみにそのケースでは、音声読みを使ったら、困難を克服することができたそうです。

（※このエピソードは、井上賞子先生のお話からの引用です。支援教育に関する著書があります。ご関心のある方はお読みください。）

子どもの能力を伸ばすことが簡単ではないことをよく知っているつもりでいた私も、このエピソードには考えさせられました。

その子は、自ら時間をかけ、理解できるまで繰り返し読み、それでも理解できないところは推測で埋めていました。このような努力のおかげで、一見できるように見えていました。

できるように見えていたことで、逆に正しく理解してもらえない状況が続いてしまったのは、なんと皮肉なことでしょう！

普通のなまけものだったら、もっと早く困難を見つけてもらって、もっと早く支援を受けられたのかもしれません。本当に皮肉です。

でも、中学進学後、見つけてくれた先生がいたことは、幸いでした。理解してくれる先生がいなければ、「中学に上がって、勉強をサボるようになった」と思われていたでしょう。見も知らぬ中学生ですが、救われたことに、ほっとします。

このエピソードは、そんなに特殊な話ではないように思います。

どの教科でもおこりうることなのかもしれません。

やる気がないわけでもない。

なまけているわけでもない。

能力が落ちたわけでもない。

なぜか、だんだんやりたがらなくなる・・・。

できていたはずのことができなくなる・・・。

それがおこるのは、課題の質が変わった時です。

それまでの方略に限界が来た、ということです。

よく似た話をします。

小さな時から音楽が好きな子がいます。ピアノに触れるのも大好きです。

お耳が良いので、知っているメロディの断片（２～４小節くらい）をさぐり弾きで弾くこともできます。

曲をおぼえるのも得意です。簡単な曲なら、何回かきいただけで、一部分をおぼえて弾いて再現できます。

まわりのおとなは驚き、目を細めます。

「すごいね！」

「モーツアルトみたい！」

「将来、ピアニストになるのではないか？」

「いや、作曲家かもしれない！」

その子は、自信をつけ、ますますピアノが好きになります。

年齢が小さいので、弾く曲は簡単です。

簡単な曲なので、おぼえてしまいます。おぼえて弾くので、楽譜は読みません。

このように、耳できいて、おぼえて弾くやり方を「おぼえ弾き」といいます。

曲が簡単なうちは、「おぼえ弾き」こそが、実は簡単です。

すぐおぼえるので、どんどん曲が進みます。

楽譜を読みませんから、楽譜を読む勉強をしません。

その分、楽譜を読む子よりも、はやく進みます。はやく難しい曲に手が届きます。

曲が簡単で、楽譜を読むよりもおぼえる方がはやい時代ですから、当然のことです。

しかし、「おぼえ弾き」の子の限界は、案外はやく訪れます。

冒頭の国語の話と同じ、それまでの方略に限界が来た時、です。

曲が難しくなって、おぼえられなくなった時、「おぼえ弾き」の子は、ピアノを弾くことが難しくなってしまいます。

小さいうちにピアノを習う子は多いですが、小学校３～４年生くらいになって、ピアノをやめる子が急増します。

それはまさに、曲が難しくなって、「おぼえ弾き」が通用しなくなるタイミングです。

「江口メソード」の目指すことの１つに、「おぼえ弾きの撲滅」があります。

だって、曲が難しくなったタイミングは、いよいよすてきな曲に手が届く楽しい時代の幕開けではないですか！

そのタイミングでピアノをやめるなんて！

フレンチのフルコースで、スープだけ飲んで席を立つようなものです。

あり得ません！

最近、絶対音感の通信のコースを受けている生徒さんが、ご近所のピアノの先生に習おうとしていました。その先生に、絶対音感に弊害がない「江口メソード」の教材を使ってほしいと頼ん

だところ、「江口メソードは、進みが遅いのよねえ～」と、渋い顔をされてしまったそうです。

その話をきき、たいへんくやしい思いをしています。

「おぼえ弾き」だと進みがはやいことは、私どももよく分かっています。

それでも私たちの使命は、「おぼえ弾き」の撲滅です。

手元を見ないと指を動かせない子は、楽譜を見ながら弾くことができません。だから、おぼえてから弾く「おぼえ弾き」になってしまいます。

楽譜が読めない子も、「おぼえ弾き」になります。読めないので、おぼえるしかないのです。年齢の小さな子に五線読譜からスタートすると、高確率で「おぼえ弾き」になります。

一音会の生徒さんは、特に耳の良い子ばかりです。耳の良い子たちは、ただでさえ「おぼえ弾き」に流れがちです。

そこをせきとめるのが一音会の役割だと思っています。ちゃんとメインディッシュまで到達してもらわなければ困ります。

他のおけいこごとでも、この種のことはきっとあるでしょう。

一見、すらすらできているようでも見えないつまづきを抱えて、苦しんでいるかもしれません。

はやく進むのは、必要な技能の習得をとばしてしまっているからかもしれません。

おうちの方には、「できる」の中身を見てあげてほしいと思っています。

（江口　彩子）

※すでにお気づきのように、今月号からフォント（字体）を変えています。先月号まではオーソドックスな明朝体を使っていました。今月号は、読むことに困難を感じる方が読みやすいとされるユニバーサルデザインのフォントを使っています。

◆ピアノ発表会では、ご協力をありがとうございました

一音会の「ピアノ発表会」を、７月３０日（日）、８月４日（金）、５日（土）、６日（日）、７日（月）の５日間にわたって開催いたしました。生徒さん、ご家族の皆さまのご協力のおかげで、無事、終えることができました。

今年は、急な欠席の方もほとんどいらっしゃらず、多くの方にご参加いただきました。また、今年は格別に暑い夏となりましたが、たくさんのお客さまがご来場くださいました。心から御礼を申し上げます。

昨年までは８月初旬の４日間開催でしたが、ご参加の方が増えたことにともない、今年から５日間の開催としました。日程が２つ、会場も２つ、という新しい形の発表会を試みることもできました。

７月中に発表会を終えて、はやくご旅行やご帰省等、夏休みのスケジュールに入りたい方もいらっしゃれば、学校が夏休みになってから練習に時間を使い、８月になってから発表会に参加したい方もいらっしゃり、７月と８月の２つの日程をご用意したことは、悪くないスケジュールであったと自負しています。

来年も、Ａ日程（７月）とＢ日程（８月）の２つに分ける日程で、発表会を予定しています。

２０２４年の発表会の日程および会場は、以下の通りです。

Ａ日程：７月２７日（土）　清瀬けやきホール

Ｂ日程：８月２日（金）～５日（月）　成増アクトホール

今は、大きな舞台を終えた充足感を胸に、日々のおけいこに取り組んでいらっしゃることと思います。

挑戦を重ねるごとに、生徒さんは大きく飛躍されます。その成長の姿に、私どもは慣れることがありません。そのたびに、驚き、高揚します。

次の挑戦で、またおおいに驚かせていただきたいと思っています。

◆「音楽の集い」を開催します

コロナが５類に移行した今年度は、すべてのイベントを制限なく開催する予定です。コロナ禍で縮小せざるを得なかった部分も、可能な範囲で元に戻しています。

それと同時に、コロナ禍で得た新たなやり方（オンラインやアーカイブ）も並行させ、コロナの苦労も無駄にしない精神で、よりスマートなイベント運営につとめます。

発表会後は、「音楽の集い」そして「ピアノ・トライ」です。「ピアノ・トライ」につきましては、今年度もハイブリッド方式を基本とします。来月号でくわしくご案内いたします。

まずは、「音楽の集い」について、ご案内させてください。

毎年、文化の日は、“音楽を愛する人が集う日”であり、おとなの方の発表会「音楽の集い」を開催しています。

おとなの方限定ですので、ピアノ発表会とは別の趣があります。もちろん、ピアノ発表会と「音楽の集い」、両方にご出演いただくこともできます。

一音会にかかわる、おとなの方全員に参加資格があります。基本は、一音会でレッスンを受けていらっしゃるおとなの方の発表会なのですが、レッスンを受けていない方、例えば子どもの生徒さんのお父さまやお母さまにも、ご参加資格があります。

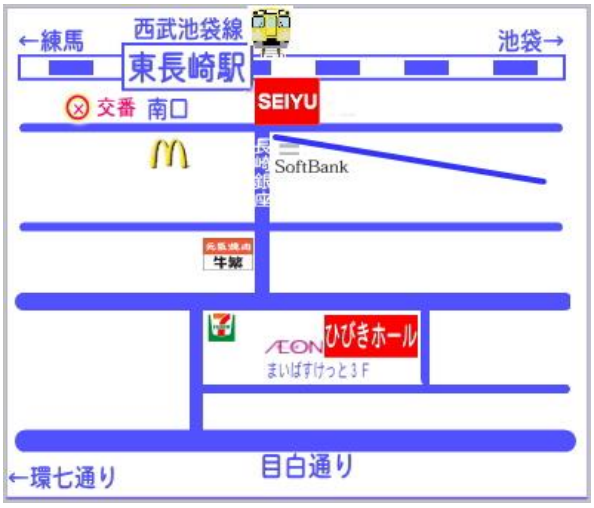
演目もピアノにかぎりません。歌やピアノ以外の楽器でご参加いただくこともできます。

日程：　２０２３　年　１１月３日（祝）
時間：　１２：３０開場　１３：００開演(予定)
場所：　「ひびきホール」

ひびきホール

★西武池袋線　東長崎駅
　南口より　徒歩５分

★ビルの１階はスーパー
　「まいばすけっと」です



有観客の形で開催します。

近年、ご参加の方が増え、公演時間が長くなってきています。最初から最後まで客席で観覧するのは、少々たいへんです。

そのため、昨年同様、全演目を撮影させていただき、後日、YouTube で配信いたします。閲覧制限をかけ、事前にご案内した人以外の人は閲覧できない形にしますので、部外者に映像を見られる心配は不要です。

当日、客席でご覧にならなくても、動画でご覧いただくことができますので、ご自身の出演が終わったら、お帰りいただくこともできます。また、遠方の方においでいただかなくとも、URL をお知らせすることで、ご覧いただけますので、ご親戚の方やお友だちに演奏を観てもらう良い機会にもなると思います。

「音楽の集い」のご案内は、「ショパンはうす」受付に置いています。ご出演をご検討くださっている方は、ぜひご請求ください。

ご参加を検討中の方が、単発でレッスンをお受けになることもできます。その場合は、本部に一度、お問い合わせください。一番良い形をご相談させていただきたいと思います【本部：03-5966-7711・担当：森田・谷口】。

◆卒業生のご活躍

この夏は、卒業生の皆さんの演奏活動のニュースが多く寄せられた、うれしい夏でした。

コロナ禍が過去のものとなり、演奏活動が再開できる世になったことを実感します。海外で活動中の方が夏に凱旋帰国をして、日本でコンサートを開くこともできるようになりました。海外との行き来が自由になったことも、たいへんうれしいことです。

今後も、ご卒業生のご活躍は、できるかぎり教室ホームページでご紹介していきたいと思います。

卒業生の藤田真央さんのインタビューを軸とした書籍「モーツァルトは生きるちから～藤田真央の世界～」が発売中ですが、この中で、一音会のことが触れられています。

ご興味がある方は、ぜひお手にとってください。

伊熊よし子　著

(ヤマハミュージックエンターテイメント)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊スクールの生徒さんのご質問を、以下の２つの方法で受け付けています。

メール：ichionkai.piano@gmail.com　　電　話：03-3954-9999

＊お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後 7 時～9 時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

＊ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お 1 人 10 分を目安とさせていただいています。ご了承ください。